



平成 24 年 9 月 19 日

報道関係者各位

10 月 11 日は国際ガールズ・デー
**記念イベントにてガールスカウト
「Stop the violence キャンペーン」スピーチ**

(公社)ガールスカウト日本連盟(会長 浅野万里子)は、国際連合広報センター、プラン・ジャパンと共に、10 月 8 日(月・祝)に国際ガールズ・デー記念イベントを開き、世界的にはじまった「Stop the violence キャンペーン(STV:少女に対する暴力をなくすキャンペーン)」について訴えます。



少女に対する暴力は、途上国・先進国にかかわらず様々な形で存在します。世界中で、10 人中 6 人の女性が生涯の内に身体的、性的な暴力を受けており、1 億人の少女が“行方不明”であり、少女だという理由だけで命を奪われることもあります。日本も例外ではなく、様々な形で少女に対する暴力が存在します。

少女と若い女性のための世界最大の社会教育団体であるガールガイド・ガールスカウト世界連盟(以下、WAGGGS)の特性を考慮した時、私たちはこの問題について変化を起こせると考えました。WAGGGS は、「すべての少女が尊重され、世界を変えるために行動をおこすことができる」ということを実現するための、100 年の歴史と豊富な経験、世界的なネットワークを活かし、この問題に取り組んでいきます。145 の国と地域のガールスカウトそれぞれの国が抱える少女に対する問題にフォーカスをあてて実施することで、世界的に大きなムーブメントになることが期待されます。

そして、女子教育を 100 年に渡って行ってきた WAGGGS は、プラン・インターナショナルと共同して「国際ガールズ・デー」の制定を国連に働きかけ、昨年 12 月 19 日(現地)に国連総会にて、毎年 10 月 11 日を「国際ガールズ・デー」とすることが正式決定しました。

ガールスカウト日本連盟では当面、身近な暴力として近年増加しているデート DV に焦点を当て、2011 年 12 月を皮切りに、少女自身が力をつけ、少女に対する暴力をなくす取り組みを行っています。今秋以降、各地で少女に対する暴力について、同年代や年下の少女たちにも伝えて、社会に働きかけることのできる「チェンジエージェント」を育てていきます。

ご多忙の折、誠に恐縮ですが、ぜひ、ご取材賜りますようよろしくお願い申し上げます。

●STV の特徴

2011 年のガールガイド・ガールスカウト世界連盟第 34 回世界会議で開始され、ガールスカウト日本連盟では 2011 年 12 月 23 日のセミナーを皮切りに始まりました。女性や子どもを対象にしたキャンペーンは多いものの、“子ども”、また“女性”の中に含まれてしまい見えにくくなっている“少女”に焦点を当てているという点で、他団体にはないガールスカウト独自のキャンペーンとなっています。また、キャンペーンを通して、「どのように助けを求め」「暴力から身を守り」「暴力に対し NO といい」「少女と若い女性に対する差別や偏見に立ち向かう力」を少女と若い女性自身が身につけることが特徴です。

●ガールスカウト日本連盟の STV のビジョン

私たちは少女と若い女性に対する暴力のない社会に向けて今後 10 年間の長期キャンペーンとしてすすめます。10 年後には 2 つのビジョンを達成します。

- ・少女と若い女性に対する暴力が起こらないための行動ができる人になる
- ・少女と若い女性が暴力を受けたときに対応できるようになる

■本件に関するお問い合わせ：(公社)ガールスカウト日本連盟 (担当：伊藤、飯塚)

T E L : 03-3460-0701 FAX : 03-3460-8383 E-mail : kouhou027037@girlscout.or.jp



Press Release



●国際ガールズ・デー

国連総会は昨年12月19日(現地)、毎年10月11日を「国際ガールズ・デー」とすることを正式決定しました。開発途上国では女子(18歳未満)の多くが、経済的、文化的な理由により学校にも通えず、10代前半での結婚を余儀なくされ、貧困の中で暮らしています。先進国においても、女の子には様々な社会的制約が存在します。日本の場合、思春期になると著しく下降する少女たちの自己肯定感や、社会に存在するジェンダー・バイアスによって少女たちの可能性を十分に伸ばしきれないなどの問題があります。日本の少女たちが力をつけ、さまざまな機会を得ていくことは、社会を変えることにつながります。そして日本の少女の行動は、途上国の少女の生活にも変化を与えていくものと期待されています。今回ガールスカウトが国際NGOプランと共同で国連に働きかけた「国際ガールズ・デー」第1回を記念して、10月8日にイベントを開催します。

【イベント名】「国際ガールズ・デー」記念イベント スタンド・アップ・テイク・アクション 2012

～Girl's Impact-ガールが世界を変える～

【期日】10月8日(月・祝)13時00分～15時00分

【場所】国連大学 ウ・タント国際会議場(東京都渋谷区)

【定員】360人

●デートDVの現状

日本では2001年にDV防止法が作られ、社会による被害者の救済と支援が始まりましたが、若者たちの交際で起きている「デートDV」についてはまだ十分認知されていません。デートDVは結婚していない男女間での体、言葉、態度による暴力の事です。親密な相手を思い通りに動かす為に複合的に使われるあらゆる種類の暴力を指します。



(写真)ワークショップ参加者「Stop the violence!」

●デートDVについて若者の反応

ガールスカウト日本連盟は今年8月、女子高校生120人を対象にしたデートDVのワークショップを開催しました。参加者の感想は以下の通りです。

【参加者の声(抜粋)】

- ・ワークショップに参加して驚いたことが沢山ありました。特に日本の女性で3人に1人が暴行されているということです。話を聞いて被害にあわない心も体も強い女性になりたいと思いました。
- ・少女への暴力が思ったより深刻で驚きました。恋人など身近な相手だけに他の人に相談しづらいのかもしれませんが、問題の深刻さを知らない大人や少女は多いと思います。電話相談の窓口を設置したり、学校で考える機会があるべきだと感じました。
- ・私のように、今回話を聞いて初めて知る人も多いと思うので、私は一人の女性としてこの活動を広げるお手伝いができればいいなと強く思いました。

●ガールスカウト教育について

子ども達は様々な課題を抱えており、その根底にあるものとして、低い自己肯定感と、人と関わる力の弱さが指摘されていますが、近年の調査で、ガールスカウト活動が少女たちの自己肯定感を高めることを立証しました。小学校時代は「今の自分が好き」と自分を肯定的に受け止められていた少女たちも、年齢があがるに従って自信を無くすことが少なくありません。ガールスカウトは女子のみの団体であることから、女子がリーダーシップをとり、困難なことを自分たちだけで解決するなどの活動を通して、少女の自尊心や自立のための力をつける場となっています。